

令和3年度 兵庫県立三木東高等学校 各年次・各部の課題と取り組み

<p><b>教育目標</b></p> <p>1 校訓「<b>自治・協同・敬愛</b>」に基づく教育を推進し、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間を育成する</p> <p>2 個に応じた教育により、自ら学ぶようとする態度を育成し、一人ひとりの能力・適性に応じた進路の実現を図る</p> <p>3 地域の教育力を活かした教育活動を推進し、地域から愛される開かれた学校づくりを進める</p>	<p><b>学校経営の重点</b></p> <p>(1) <b>キャリア教育を支援する総合学科における取組の推進</b></p> <p>ア 個々の生徒に応じたキャリア形成を目標し、生徒の主体的な教育活動を展開する</p> <p>イ 生徒の自己実現を促進し、生徒の「基礎的・汎用的能力」の育成を目的とした自己有用性につながる様々な体験活動をおこなってキャリア教育を推進する</p> <p>ウ 次年度からの新学習指導要領を見据え、魅力ある学校づくりを進めるための将来ビジョンを構築する</p> <p>(2) <b>生徒の可能性を広げ、生徒一人ひとりの能力・技能を高める指導の展開</b></p> <p>ア 個々の生徒を尊重し、豊かな人間性を育む教育活動を展開する</p> <p>イ 生徒の自己実現を促進し、主体的な学習態度と豊かな能力を育成する</p> <p>ウ 生徒・教員のふれあいを基盤とした生徒に対する共感的理解に基づく生徒指導を推進する</p> <p>(3) <b>学校の組織力の強化及び教職員としての実践的指導力の向上</b></p> <p>ア 教育の専門家として、専門知識・技能を身につけ、更なる発展・能力の向上に努める</p> <p>イ ワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、業務の効率化と勤務時間の適正化を図る</p>
<p><b>令和3年度努力目標</b></p> <p>① <b>キャリア教育の充実</b></p> <p>② <b>学力の向上</b></p> <p>③ <b>教員の授業力の向上</b></p> <p>④ <b>生徒の主体的な学習態度の向上</b></p> <p>⑤ <b>広域活動の充実</b></p>	<p><b>令和3年度の学校評価の流れ</b></p> <p>(6月) 担当部署で本年度の課題と課題に対する取り組み、評価指標と活用するアンケートを決定する</p> <p>(8月) 担当部署で中間評価を実施→前期の取り組み成果と後期に向けて見直すべき点があれば見直す</p> <p>(12月) 学校評価アンケートの実施</p> <p>(1月) 主任・保護者・教職員アンケートの実施</p> <p>(2月) 学校自己評価</p> <p>(3月) 学校関係者評価</p>

令和3年度 努力目標No.・課題(目標)・課題に対する取り組み・評価指数と活用する外部アンケート(各年次・専門部)		課題(目標)	課題に対する取り組み	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点(5段階)	各年次・専門部平均	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言	
1年次	②	「確かな学力」の育成を目指すし、主体的に学習に取り組む態度を育てる。幅広い知識と教養を身に付け、生涯にわたって個性や資質・能力を伸ばすことができるように家庭での学びを充実させるための学習課題の設定と学習環境の充実を図る。	・「生活・学習の記録」を活用し、①起床②帰宅③就寝時間の3点固定を推奨するとともに、家庭での学習時間を可視化し、週単位で家庭学習時間の目標設定と実施状況の振り返りを行わせる。 ・「国語」「数学」「英語」の既習範囲を中心に週末課題として課題範囲を提示し、週に週末課題。	10月実施の高校生活実態調査において、「①」の質問に対して、「①しっかりと集中できていますか。」「②いつか」と回答している生徒が、「②ある程度は集中できている。」「②」の提出物は期限を守ってきちんと提出できていますか。」「③」の質問に対して、「①期限を守ってきちんと提出できていますか。」「②ほぼ期限を守って提出できていますか。」「③」の2項目の回答結果がどちらも80%以上である。」「④」の質問に対して、「①全くない」「②たまに」の回答結果が10%以下である。	・「生活・学習の記録」を活用し、①起床②帰宅③就寝時間の3点固定を推奨するとともに、家庭での学習時間を可視化させることができた。生徒によっては、週単位の家庭学習時間の目標設定と実施状況の振り返りが不十分な生徒もおり、継続した働きかけが必要である状況である。 ・「国語」「数学」「英語」の既習範囲を中心に課題範囲を提示し、計画的に週末課題に取り組ませることができた。	4.0		・評価指標である10月実施の高校生活実態調査の結果として、「①」の質問に対して「①」の回答結果が92.9%、「②」の質問に対して「①」の回答結果が89.9%、「③」の質問に対して「①」の回答結果が84.4%であった。	・家庭における学習習慣の確立を重点課題として取り組んでいることは、「確かな学力」の育成という観点からしても重要である。基礎基本の定着なくして主体的な学びの姿勢を育成することは難しい。学習状況の把握を丁寧に行うことで、提出課題への工夫がなされるなど、取り組みがされている。 ・設定された評価基準に照らして、ほぼ目標達成していると思います。「家庭での休日の学習時間がゼロ」という回答は、設定した基準より悪いわけですが、これが記名式のアンケートであったとすれば、支援の対象者がピンポイントで把握できるわけですので、個に応じた指導を焦点化しやすいと思います。 ・コロナ禍による行事の縮小や部活動の制限など、教育活動への影響がある中、自立や人権意識の向上への取り組みがなされている。	
	④	学校行事や部活動に積極的に参加する雰囲気醸成する。参加を通じて、生徒一人ひとりの「自立」に向けた自己認識や自尊感情を高める機会とする。	・文化の部や体育の部などの学校行事・部活動の積極的に参加を推奨する。 ・学校行事を通じて、クラスメイトとの人間関係を深め、コミュニケーション能力の向上を図る。	10月実施の高校生活実態調査において、「(1)「文化の部や体育の部などの学校行事に際し、準備段階を含めて積極的に活動できましたか。」「①積極的に活動できた。」「②あまり参加しなかった。」「③」の質問に対して、「①積極的に活動できた。」「②あまり参加しなかった。」「③」の2項目の回答結果がどちらも80%以上である。	・文化の部が6月17日に開催され、1年次生徒はクラスごとの選択により「展示部門」・「ステージ部門」に参加することができた。 ・体育の部が9月30日に開催され、クラス対抗による競技が行われた。残念ながら、総合順位において上位3位まで入賞する1年次のクラスはなかったが、「大縄跳び」の競技において2位となるクラスもあり、健闘することができた。 ・球技大会が7月14日に開催され、男子「キックベース」、女子「バレーボール」の競技において1年次クラス対抗戦を実施することができた。	4.1	4.0	・評価指標である10月実施の高校生活実態調査の結果として、「①」の質問に対して「①」の回答結果が91.4%、「②」の質問に対して「①」の回答結果が85.6%であった。 ・コロナ禍による学校行事の縮小開催や部活動の活動休止期間などの影響もあつたが、積極的に行事や活動に関わらせ、生徒一人ひとりの「自立」に向けた自己認識や自尊感情を高める機会とすることができた。次年度も継続して取り組んでいきたい。		
	④	人権尊重に対する理解を深め、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成し、「豊かな心」の形成を目指す。	・1学期および2学期にそれぞれ各1回の人権ホームルームを実施する。 ・日々のホームルーム活動を通じて、クラスの一人としての役割を担う機会を設ける。	7月および12月実施のいじめに関する生徒アンケートにおいて、「学校に来ることは楽しいですか。」「①楽しい」「②まあまあ楽しい」「③」の質問に対して、「①楽しい」「②まあまあ楽しい」の回答結果が80%以上である。	・1学期の人権ホームルームを6月に実施、2学期は11月に実施する予定である。 ・学級役員や係決めを4月・9月に実施した。クラスの一人として、役割を果たせる環境づくりを継続していく。	4.0		・評価指標である7月および12月実施のいじめに関する生徒アンケートの結果として、「①」の回答結果が7月が91.0%、12月は92.5%であった。 ・評価指標である10月実施の高校生活実態調査の結果として、「①」の質問に対して「①」の回答結果が96.8%であった。	・1年次は一般学習と聞いています、その中でも国語、数学、英語に力を入れているのは、良いのではないのでしょうか、英語教育は英会話が出来る教育を優先すべきでは、又、起床、帰宅、就寝時間の記録活用は、スバラシイと思います。 ・努力目標④に関して、評価指標である10月実施の高校生活実態調査や7月及び12月実施のいじめに関する生徒アンケートの結果が良かったことは、コロナ禍の厳しい状況の中でも、できる限りの学校行事や部活動を実施し、クラスの中でも生徒に役割分担をさせて、他者とのつながりや居場所を感じられる機会を積極的に作る努力をされた表れだと思います。	
2年次	①	「総合学習」等の授業を中心に、将来の職業選択を考え、進路研究に役立てる。	「総合学習」等の授業を中心にインターンシップ・オープンキャンパスに参加し将来の職業観を考える。	「総合学習」の取り組みで、発表・レポートを通して、「課題研究」論文に繋げる。	インターンシップやオープンキャンパスが、コロナ禍の影響で例年のような状況での完全実施ではなかったが、代替としてレポート提出100%、評価が5段階の3以上の成績を修めることで、取り組み状況を計測し、概ね目標を達成したと考えられる。	4.0		評価にあたる者(観点項目が2以上D)が5名。評価で3と考えて全員ではないが、代替内容で対応しながら生徒たちは積極的に取り組みを行ったと思う。	・「学力向上」を最優先に授業を大切にしている態度の育成や教員の授業改善に取り組まれている。スタディサプリを活用した「個別の学習」に加え、総合学習での発表など「協働的な学習」の取り組みもされている。	
	②	「学力向上」を最優先に、授業を大切にすることを、家庭学習を習慣化するとともに、休業にも対応できる学習環境の提供を行う。	スタディサプリによる家庭学習時間調査を実施、メッセージ機能による個別の対応をおこなう。	学習時間の結果を見て、生徒自身が家庭学習時間の目標を立て学力向上に繋げる。	48回生では、スタディサプリよりも、各生徒が記入し提出する「生活と学習の記録」を通じ、担任が各生徒の状況より細やかに把握し、呼びかけを行っている。結果として考査前+学習時間は「0」も数名見受けられたが、全員が学習時間を増加させていると記録に記入している。年次+1時間を最終目標と見做り、現時点では概ね目標を達成しており、	3.9		学習や授業を大切にしている考えについて、もともと意識が高い面があったが、さらに高めるよう意識づけを行っている。 高校生活実態調査の結果より、学びの「ある程度」で約94%、考査前の学習が「まったくない」が1.5%から0.5%に減少した。ただし、卒業の学習時間については「全くない」が15%程度存在するなど、学習へのアプローチも工夫している。		
	③	「学力向上」を最優先に、授業研究を行い、突然の休業等にも対応できる遠隔授業の研究も行う。	スタディサプリによる家庭学習時間調査を実施、メッセージ機能による個別の対応をおこなう。	長期休業中や日々の復習・予習に活用できないかを考え活用する。	スタディサプリの学習呼びかけから、直接生徒の声掛けを行い学習活動を行う方向にシフトしている。11月からは放課後急修補習も実施し、進路指導や授業意識を高めている。スタディサプリ以外でも学習活動を活性化させており、軌道修正を図りながらより生徒の意識づけの効果を高めていきたい。目標を軌道修正したが、こだわり過ぎず柔軟な方法を考えて活動を行っている。生活実態調査でも結果を把握している。	48回生では担任をはじめ年次の担当者が個々の状況を把握、情報交換を行い生徒の様子を把握している。個別面談も複数回完了しており、気になる生徒には直接の面談や声掛けなど複数回対応を行っており、目標は達成している。今後とも取組を継続していく。	3.9	4.0	学習や授業を大切にしている考えについて、もともと意識が高い面があったが、さらに高めるよう意識づけを行っている。 高校生活実態調査の結果より、学びの「ある程度」で約94%、考査前の学習が「まったくない」が1.5%から0.5%に減少した。ただし、卒業の学習時間については「全くない」が15%程度存在するなど、学習へのアプローチも工夫している。	
	④	生徒生活状況や課題の取り組み状況の把握を行う。	年次団で全生徒の個別面談を行う。	個別面談で生徒の個々の状況を把握した結果の活用。	48回生では担任をはじめ年次の担当者が個々の状況を把握、情報交換を行い生徒の様子を把握している。個別面談も複数回完了しており、気になる生徒には直接の面談や声掛けなど複数回対応を行っており、目標は達成している。今後とも取組を継続していく。	4.3		学習や授業を大切にしている考えについて、もともと意識が高い面があったが、さらに高めるよう意識づけを行っている。 高校生活実態調査の結果より、学びの「ある程度」で約94%、考査前の学習が「まったくない」が1.5%から0.5%に減少した。ただし、卒業の学習時間については「全くない」が15%程度存在するなど、学習へのアプローチも工夫している。	・努力目標④に関して、コロナ禍で人間関係が希薄になったり、家庭での生活状況を把握するのが難しくなりがちだと思われるので、個別面談を積極的に実施したいことは良いことである、生徒や保護者の安心感につながると思います。 努力目標④に関して、確かに、紙媒体は保護者の目に触れにくいと思われます。メール等で、近年通信を発行しました。ここに注目。」というようにお知らせいただけると、気にして見るようになるのではないかと思います。	
	⑤	学校行事・2年次の取り組みを年次通信で広報発信する。	年次通信を毎月発行。スタディサプリのメッセージ機能や365メールを活用して情報を発信。	緊急対応だけでなく、スタディサプリのメッセージ機能や365メールを活用し保護者・生徒との情報共有を行う。	月に1回以上の年次通信発行は実施している。必要に応じ365メールも活用し、保護者を含め広域活動や連絡を行っている。課題としては「紙」媒体の場合、保護者の手元に届かない場合も多く365メールと組み合わせながらより広域活動を充実させている。	4.1		年次通信やホームページ、365メールも適宜活用して情報発信は行った。今年度は紙媒体が保護者へ行きやすい工夫を考えていきたい。具体的なことは、紙媒体とメールの相乗効果を行いたい。		
3年次	②	生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせ、学力向上と進路(進学・就職)の実現に向かう環境を整備する。	・進路サポートを実施し、進路実現に向けた準備を行う。 ・放課後補習や夏季補習を開講し、進学における入学試験対策や対面でなく、就職試験対策も実施し、幅広い進路に対応する。	生活実態調査において、「希望する進路を実現するために積極的に準備できていますか。」を問う。	就職希望者に夏季休業中から就職補習・面接指導の実施、2学期の現在就職希望者全員が内定を勝ち取った。これからは、社会人としての常識と学力を身につけ、進学希望者の応援に回ってほしい。 3Q入試対策や面接、エントリーシート、自己推薦文の作成をして健闘した。指定校推薦でも第1希望の大学にエントリーして推薦会議で選ばれた進路を実現した。現在公募推薦に出席中である、健闘を期待したい。来年の一般試験で受験した生徒は放課後補習を受け、目標を高め真剣に頑張っている。	3.8		2年次より就職補習、3年次「総合実践」など就職希望者が履修して、就職意識を高め健闘した。進学では共通試験を受験、一般入試の最後の最後まで頑張る気持ちを持ち、進学希望校への納得した結果を残した。現在も中期・後期受験のため頑張っている。	・就職であれ、進学であれ、将来の自分の進路選択についてしっかりと情報提供を行い、進路への目標を持たせるための取り組みが行われるなど、進路対策への取り組みがしっかりと行われている。 ・コロナ禍によりSNS利用者が増加する中、「心豊かな人間性」の形成を目指し、人権意識の向上に取り組まれている。 ・1年次・2年次のような数値によるベンチマークは示されていませんが、何らかの問題は常にあるので、そこが明確になるならば、評価の仕組みは十分機能していると思います。 ・設定した評価指標とアンケート結果を活用し、その評価から適切な改善策を実施することで、より成果が実感できるようになると考える。 ・3年次では、生徒一人ひとりで明確な進路目標を持って、進学及び就職に向けての教育、特に研究発表等を通じての体験学習でキャリアアップを行い、進路に繋がれば良いのでは、又、いろんな理由で登校出来ない生徒に対してSNS授業及び、ライン等による相談が出来れば尚良いのでは。	
	④	部活動や学校行事に積極的に関わらせ、最高年次としての自覚を促す。	・引退まで継続して部活動に参加するように推奨する。 ・最高年次として、それぞれの学校行事を思い出深いものとなるように積極的な参加を推奨する。	高校生活実態調査において、「(1)「文化の部や体育の部などの学校行事に際し、準備段階を含めて積極的に活動できたか。」を問う。 (2)「4月以降を振り返って、あなたの学校生活は充実しているか。」を問う。	2年次よりコロナウイルス感染・緊急事態宣言発出により、修学旅行をはじめ学校行事が中止になりストレスを感じる日々を過ごした。3年次になり武庫寮「文化の部」・体育の部」を行うことができ、高校での思い出が詰まったことだと思われる。感染者数も減り、安心できないが、最後のサプライズに遠足を企画したい。	3.4	3.6	11月にU.S」遠足を実施。滞在時間6時間を満喫。始めの予備より欠席者が少なかった。ストレス解消、クラスの雰囲気も良くなった。		
	④	人権意識を高め、「心豊かな人間性」の形成を目指す。他人の意見に耳を傾けながら、自分を表現できるコミュニケーション力を身につけさせる。	・1学期および2学期にそれぞれ各1回の人権ホームルームを実施する。 ・日々のホームルーム活動を通じて、クラスの一人としての役割を担う機会を設ける。	いじめに関する生徒アンケートにおいて、「学校に来ることは楽しいか。」を問う。 1.高校生活実態調査において、「日番や掃除当番、委員の活動など、クラスの一人としての役割がよくなったか。」を問う。	SNS等の利用、対人関係など細かな指導により落ち着いている。 10月のLHRで、人権学習「ジェンダー」について学習した、DVDを視聴する態度も非常に良かった。実際の社会で活用できるように考えを深めてもらいたい。 進路の決定していない友を応援する、優しい心を育ててほしい。	SNS等の問題は少なくなった。 コロナのための昼食の取り方等、人を思いやる心が少し未成熟だと感じた。	3.6	SNS等の問題は少なくなった。 コロナのための昼食の取り方等、人を思いやる心が少し未成熟だと感じた。		
総務部	②	・読書啓発活動を行い、学校図書館の活性化をはかる。 ・ピリオバトルを通じて読書力を養い、自分の思いを相手に伝えるコミュニケーション力を高める機会とする。同時に、プレゼンテーション能力の向上もめざす。 ・豊かな感性と思考力を育成する。 ・3年間で10冊以上の図書館の本を借りて年次の上位3名が受賞できる「読書奨励賞」の受賞者3名をめざす。	・今年度2回予定している全校生徒・全職員対象の図書購入希望調査や読書啓発活動による図書購入リストを作成する。図書館の先生方の協力をとりながら、定期的に図書を購入する。図書だより「Library」に読書啓発ポスターを掲載したり、表紙のコラボコピーを掲示して、新年度読書を促す。 ・図書委員の作成した読書啓発ポスターも活用し、読書活動の継続的な啓発を行う。 ・「読書祭」ピリオバトル高校生活大会」出場に向けて、「校内ピリオバトル大会」を予定し、参加者を募る。 ・初めて「ピリオバトル」に参加する生徒の不安を軽減する為、「ピリオバトル」をテーマにした「兵庫県立図書館学校サポート講座」を実施する。全校生徒に参加を呼びかけ、「ピリオバトル」の経験を読書啓発や図書利用につなげる。	・図書だより「Library」を毎月発行している。 ・「図書館報」を年1回発行している。 ・図書委員による読書啓発ポスターを校内に掲示している。 ・図書委員による読書啓発のお知らせを校内の生徒が通る廊下に掲示している。 ・全校生徒およびかつて「校内ピリオバトル大会」の参加者を募り、「校内ピリオバトル大会」を年間開催する。 ・「兵庫県立図書館学校サポート講座」を活用し、図書館の来館者を増やし、読書啓発活動を行う。 ・「読書奨励賞」の受賞者が1名以上いる。	・今年度の読書の年間計画を立てて、その計画を確立しなると決められた。 ・前期「読書購入希望調査」を実施して、クラスで読書好きな職員からリストアップした。 ・図書委員会を2回開き、「図書館へ行こう」ポスターの制作やクラスでの「読書購入希望調査」の実施をした。 ・「Library」を毎月発行し、新年度読書の案内、人気読書のランキングや読書の紹介や読書イベントを開催した。 ・図書委員図書担当にきて読書啓発をカウソウすることにより、来館者数の増進を期待することができ、「Library」を通じて、来館者数の多い曜日や読書イベントの開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。	・コロナ禍の影響で読書祭が中止となり、読書祭を開催できなかった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。	4.2		・コロナ禍の影響で読書祭が中止となり、読書祭を開催できなかった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。 ・読書祭を開催し、全校生徒の読書祭の開催も明らかになった。	・表現力や思考力を高める取り組みとして、「校内ピリオバトル大会」を開催するなどコミュニケーション力の向上に努められている。また、学校の図書館利用を充実させるための取り組みが重点的になされている。このように読書活動の充実を図ることにより、読書力や表現力の向上へと繋がる。
	④	毎日の清掃活動や整備委員会による定期的な通学路清掃を通じて、校内外美化・地域美化に努めることの大切さと、環境問題への意識を高める。同時に、通学路清掃を通して地域の方々への感謝の意識も高める。	整備委員会として校内清掃活動を意識して行う。 整備委員会を活用して通学路清掃を実施する。 校内外美化を啓発するポスターを作成し、生徒の美化意識を啓発する。	・整備委員会が作成したポスターを掲示することにより、生徒の美化意識を啓発し、整備委員会が率先して校内外美化に努めている。 ・整備委員会による通学路清掃を学期に2回実施している。 ・整備委員会による校内外美化啓発ポスターを作成し、教室やゴミ箱付近に掲示している。	・整備委員会を中心に学校周辺の通学路を中心に地域清掃を実施し、美化に努めることの大切さやゴミの分別など「環境問題」への意識付けを行うことができた。 ・武庫寮等を中心に、校内外美化活動にも積極的に取り組む。校内を綺麗に保つこと、ゴミを上げないことなど自分たちが今できることについて意識付けと共に学校全体でも美化活動への意識付けをすることが出来た。 ・後期に向けてポスター制作やゴミ箱清掃を通じ、一層の校内外美化・地域美化に貢献し、一人ひとりが美化活動の大切さを再認識できるよう取り組みたい。	・整備委員会を中心に学校周辺の通学路や地域を清掃し、ゴミ箱清掃を行い、美化に努めることの大切さやゴミの分別など「環境問題」への意識付けを行うことができた。 ・学校行事に限らず校内外美化活動も積極的に取り組む。校内を綺麗に保つために自分たちが今できることについて考える機会を持つことができた。また、ポスター制作により校内外美化を呼びかけた。 ・定期的に通学路清掃を行うなど、今後も地域美化に貢献し、一人ひとりが美化活動の大切さを再認識できるよう、一層取り組みたい。	4.1	4.0	・整備委員会を中心に学校周辺の通学路や地域を清掃し、ゴミ箱清掃を行い、美化に努めることの大切さやゴミの分別など「環境問題」への意識付けを行うことができた。 ・学校行事に限らず校内外美化活動も積極的に取り組む。校内を綺麗に保つために自分たちが今できることについて考える機会を持つことができた。また、ポスター制作により校内外美化を呼びかけた。 ・定期的に通学路清掃を行うなど、今後も地域美化に貢献し、一人ひとりが美化活動の大切さを再認識できるよう、一層取り組みたい。	

